

令和5年度第2回仙台市廃棄物対策審議会 議事録

- 日 時 令和5年11月30日(木) 10:00~12:00
- 場 所 TKPガーデンシティ仙台勾当台 ホール1
- 出席委員 久田真会長、遠藤智栄副会長、川村美智委員、齋藤優子委員、佐藤朋子委員、菅原博委員、高橋たくみ委員、田村省二委員(代理出席)、沼沢しんや委員、沼田隆委員、福島康裕委員、山田政彦委員  
以上12名(委員定数20名)
- 欠席委員 安住浩一委員、大原敦子委員、齋藤和平委員、佐藤進次委員、多田千佳委員、藤田祐子委員、北條俊昌委員、吉田美緒委員
- 事務局 環境局長、環境局理事(脱炭素都市推進担当)、環境局次長兼廃棄物事業部長、環境部長、施設部長、環境局参事兼総務課長、脱炭素都市推進担当課長、廃棄物企画課長、家庭ごみ減量課長、事業ごみ減量課長、施設課長、今泉工場再整備担当課長
- 傍聴人 0名
- 次 第 1 開 会  
2 議 事  
(1) 今泉工場建替基本構想中間案について  
3 報 告  
(1) 雑がみの排出ルールの見直し及び雑がみ回収キャンペーンの実施状況について  
(2) 指定ごみ袋の水平リサイクルによる地域清掃ごみ袋の作製について  
(3) 国の「脱炭素先行地域」への選定について  
4 その他  
5 閉 会

1 議事要旨

発言者	議事要旨
久田会長	次第2 議事(1)「今泉工場建替基本構想中間案について」、事務局より説明をお願いします。
今泉工場再整備担当課長	<資料1に基づき説明>
久田会長	資料1の6ページ「基本構想の目的及び位置付け」について、先般、国の脱炭素先行地域へ選定されたことがどのくらい計画にコミットしていくのだろうか。仙台市基本計画に、この脱炭素先行地域というのは少し絡んでいくような気がしているが、市で取り組み、進めていることがあれば教えていただきたい。「The Greenest City」に直結するような脱炭素であり、廃棄物だけではないし、私たちの暮らし全般における脱炭素ということなので、それをこの目的及び位置付けのなかに組み込むか否かという、その辺のお考えがあればお示しいただきたい。
次長兼廃棄物事業部長	<p>仙台市基本計画、杜の都環境プランを通じて、脱炭素それから資源循環は大きな柱となっている。先行地域の事業については、まさにこの大きな二点が現実に、今回は3エリアで具現化していくということになっている。したがって、関係性はそういうことである。</p> <p>もう一点が工場のあり方にも当然大きく影響しており、工場はそもそも発電をしているが、バイオマス、すなわちプラスチック以外のものについては当然再生可能なエネルギーの位置付けとなるため、この利活用は非常に大きいこととなっている。今回の脱炭素先行地域についても、既存の工場での電力が持つ環境的価値を利用することとしている。今後整備をする今泉工場は、さらにそれを進めるような高効率発電は当然であるし、先ほど担当課長からご説明申し上げたような、例えば二酸化炭素の回収技術や、回収した二酸化炭素を利用したりサイクル、新たな工業製品を作るといったような、さらなる脱炭素・資源循環を目指していく必要があると理解している。</p>
久田会長	<p>15 ページにも拡張性ということで、今後どういう展開をするか未知数のところもあるので、なるべくその辺の間口を広げて考えられている点は私も支持するものであり、今回の脱炭素先行地域の選定を追い風として、ぜひこの計画の中に組み込んでいただきたいということが本意である。</p> <p>もう一点コメントさせていただくが、処理能力のところは、処理能力算定に向けての要因抽出ということで、具体的な処理能力はまだ確定していないという理解でよろしいか。</p>

今泉工場再整備担当課長	<p>現在、環境省で焼却施設の処理能力を算定する計算式というか、考え方の見直しを進めているという情報が入っている。今まで国庫補助時代の算定式を活用し、各自治体において算定していたものであり、その改定時期がいつになるかこちらでは把握をしていないが、その計算式の発出を待つて我々も処理能力の算定を進めたいと考えている。</p>
久田会長	<p>最新版ということで、アップデートなさっていることが分かった。ぜひそのようにお進めいただきたいと思う。</p>
遠藤副会長	<p>こちらの計画の中で、環境学習機能というところがあり、先日審議会でも見学をさせていただき環境学習機能の部分を拝見したが、だいぶ歴史を感じるというか、今の学習したい方の気持ちにフィットできる状態で環境学習機能が維持できているかという点では、とても課題があるのではないかと拝見した。そういう点を考えると、今は様々なプレゼンテーションの技術なども変わっているため、この工場建替えの計画に入れるのが適切なのかはわからないが、長寿命化の工事などを定期的に設置後はされていくと思うので、環境学習機能のリニューアルもそれと併せてセットで、10年単位くらいでしっかり見直して、きちんとその時代時代の学習者や市民に届くような環境学習機能にしていただけたらと思う。</p>
次長兼廃棄物事業部長	<p>まさに基本構想の検討委員会においても、かなりお金をかけて作りこんでも、そのあとのアップデートが追い付かないと陳腐化が進んでしまうのご意見をいただいたところ。特にごみ処理の技術やリサイクルの手法も非常に急速に進んでいるため、あまり作りこんでしまうとそのあとの更新が非常に難しくなるということがある。詳細については今後基本計画の中で進めていくが、今様々な技術があるため、例えばディスプレイに投影することになれば中身を入れ替えるのは比較的容易だということもあり、私共としては現在のように展示物に力を入れるというよりは、先ほどご説明したとおり、その場で学べる、あるいは交流できるといった場をつくる。したがって設備としては、会議や実習等ができるような簡素なものにしながら、そこでコンテンツの部分をきちんと運営できるような体制づくりが必要だろうと考えている。資料1の18ページにもあるように、本市の環境学習拠点はごみ処理施設見学も含めると大きく4つある。特にたまきさんサロンについては、東北大学のご協力も得ながらかなり充実した内容を展開している。こういった施設全体を改めて整理し、新今泉工場稼働に向けて、新たな環境学習をどうしていくかを今後詰めていきたいと考えている。</p>
沼沢委員	<p>資料1の17ページであるが、広瀬川すぐ目の前にあるため浸水想定区域になっていると思っており、予測される被害の程度のところで3メートル未満となっているが、元々今建っている今泉工場は浸水することを想定し</p>

	<p>ですでにかさ上げして作られている状態なのか、今はそういう想定はされていなかったものであるため、新しくつくるものは全部かさ上げするなり地下に貯水を作るなり、何かしらの方法を考えて作らなければならないのか、というのが一点である。</p> <p>それから、宮城県沖地震の際には震度6弱の負荷がかかると液状化の危険性が極めて高いとなっており、ここはそんなに液状化の危険性が高いエリアなのか驚いてしまった。東日本大震災の時にもこれくらいの震度はあったはずであるが、その際液状化が実際起こったのか、そのあたりを教えてください。</p>
<p>今泉工場再整備担当課長</p>	<p>最初のご質問についてである。今の今泉の浸水対策については特段取り組んでいない状況である。こういった3メートル未満という予測がある以上、我々としては何らかの対策をしなければならないと考えている。例えば盛土をする、または遮水性のあるシャッターなどをつける、そういったもので対応することになると思う。今後、各種調査の中で経済性も含めて検討を進めていきたい。</p> <p>二点目の液状化についてであるが、東日本大震災において液状化という現象、例えば土の中に埋まっているマンホールが飛び出すというようなことは発生していない。若干の地盤沈下は致し方ないと思うが、こういった液状化の危険性が極めて高いという表現がなされている以上、施設を建てる際に地盤調査、地質調査を行うため、その調査結果を踏まえ、例えば土の改良をするなりそういった対応を含めて検討を進めていきたい。</p>
<p>沼沢委員</p>	<p>もう一点お聞きしたい。今、「こう書かれている以上」という話であったが、いったい何にこう書かれているのかお聞きしたい。</p>
<p>今泉工場再整備担当課長</p>	<p>県などから出されているハザードマップにおいて、こういったエリアに想定されているということである。</p>
<p>施設課長</p>	<p>少し補足させていただく。かさ上げについては、今後検討していく中で費用の面も検討する要素であることと、仮に3メートルを想定し、3メートルの土盛りをしてしまうと非常に圧迫感があるため、その辺も総合的に検討する必要がある。そのため、浸水防止のシャッターという選択肢もあるところである。</p> <p>液状化については、震災の時を思い出すと、広いエリアで見れば田んぼが広がっている仙台東高校から北に向かう一直線の道路沿いには、マンホールが上につきだしているような状況がしばらく続き、今となってはそれを覚えていらっしゃる方もだいぶ少なくなっており、田園エリアの中で表面に大きな液状化があったという痕跡はなかなか見えづらいかもかもしれないが、マンホールが何十センチかは宙に浮いているという場所も実際にあつ</p>

<p>久田会長</p>	<p>たということをお伝えしておきたい。</p> <p>付け加えさせていただくと、資料1の17ページに地域防災拠点としてのあり方と書いてあり、施設が災害時に守られるという視点だけではなく、災害時になると防災拠点なのでここがきちんと機能しないと他がまわらないという、もうワンランク上のところに拠点としての位置づけがあるように思うため、この設計は少し念入りというか強めというかワンランクアップでやってもいいのではないかという気がした。ここが壊れたら他が動かなくなるという位置づけであるので、そういうお考えでいらっしゃったらよいと思う。</p>
<p>福島委員</p>	<p>脱炭素化について、先ほども少し話題になっていたが伺いたい。CCUSなどの脱炭素化技術についても将来を見据えて拡張性を確保すると書いてある。この点に関して、拡張性を確保するというのはどういう方法があり得るのかについて伺いたい。CCUSは、UがユーテライゼーションでSがストレージなのでUが利用でSが貯蔵だが、CO2を貯蔵するというのは近くに埋める井戸などがなければなかなかCO2のかたちで貯蔵するのは難しく、そのほかに貯蔵しようと思ったら、炭化できるものを炭化しそれを水の下に埋めるなど、その辺に埋めると燃えてしまうかもしれないためそういったことをしなければSは難しい。Sは将来的には売れるクレジットになる可能性もあるので考えるとよいと思う。その辺の、どういった検討をどういうスケジュールでされていくのかということに関して伺いたいのが一点である。</p> <p>もう一点は熱である。今は温水プールなどで熱利用と書いてあるが、将来的にごみの量が減っていくと規模を縮小するなどという話があったときにこの辺の温水プールなどの熱が足りるのか、現状熱が余っている状況なのか足りていない状況なのか、将来的な見通しとして熱利用がどうなっていくのかというあたりに関しての見通しを少し伺いたい。</p>
<p>今泉工場再整備担当課長</p>	<p>最初のご質問についてである。現段階において建替検討委員会の中でも現在のCCUSの技術レベルにおける問題点などについてご意見をいただいたところである。一例であるが、1日当たり300トンの焼却施設をつくるとした場合、その二酸化炭素を回収するためにはその焼却炉と同じ面積の敷地を新しいCCUSは必要とするといったお話をいただいている。要は同規模の施設が2つ隣に並ぶような技術レベルだと伺っている。施設の小規模化なども将来的には望まれるところであるといったようなお話を委員会ではいただいているところである。我々が拡張性を確保するといったことでまず想定されるのが、その敷地を確保すべきだろうということである。CCUSに限らず何か新しい技術が出た場合においても、その敷地内である程度配置が可能なような、今後建てる焼却施設の配置を適切に行う、それがまず一つだと思っている。</p>

	<p>もう一点は、これは CCUS、二酸化炭素の回収に限ったことであるが、例えば、煙突に入る前の煙が通る、煙道の途中に分岐が可能なような仕組みにしておくほか、電気の線を通しておく。ごみ処理施設で発電した電気を使って二酸化炭素を回収するため、電気の配線を通せるようにあらかじめ壁に穴をあけておくなど、そういった準備をしておくことにより、技術の導入に係る時間やコストは低減されるものと考えているため、今のレベル感ではそういったところで進めたいと考えている。</p> <p>基本構想中間案の本編にも記載があるが、今泉工場の熱回収率は古い施設であるため、かなり低い状況であり、効率よく熱を回収している状況ではないのは発電の実績などからも明らかである。現在、製品プラスチックの分別収集を行ってから一年弱が経つが、焼却施設におけるごみの熱量に対する影響は今のところは確認できていない状況がまず一点ある。今の焼却施設というのは熱の回収効率が非常に高まっていると伺っている。よって、将来的にごみの量が減少しても今の今泉工場と同等以上のものが回収できるものと考えている。温水プール等の熱供給に使う熱の量は正直言えば大した量ではないためそれほど影響はなく、逆に言えば発電できる量の方に影響が大きいものと考えている。</p>
福島委員	<p>熱の利用というのは、燃えたときの温度が高いか低いか、含まれている水分が多いか少ないか、そういうことによっても随分影響があると聞いているが、発電所として見ようと思うとやはり、どうしても効率がそこまで高くないのは清掃工場の場合には自明である。発電に思いっきり振るという考え方よりも排熱をうまく利用できる施設を付近に配置することや、CCUS であってもうまく、100%純度の CO2 でなくてもうまく使えるような設備を近くに置くなど、そういった対応をすることにより、脱炭素先行という意味でもエネルギーの活用という意味でも有利に設計できる可能性があるかなと思う。私も佐賀の清掃工場を見学してきたばかりだが、そこでもいろいろな取り組みをされているものの、全体の5%くらいしか CO2 を回収していない。100%回収するという考え方も非常に非効率であるため、エネルギー効率のいい回収率のところを回収し、できる部分で使うといった考え方でいいと思うため、その辺ぜひ広く意見を聞き効率的な CCUS と熱利用ということで脱炭素先行地域の一つの実質的なモデルというか、極端なモデルではなく実際これくらいがちょうどいいところであるというモデルを出していけるといいかなと考えている。</p>
久田会長	<p>熱にしても CCUS にしても拡張性の確保というところに埋め込まれているような気がしているが、あの施設の近隣は場所をきちんとキープしておいて、それを事業体としておやりになるのが仙台市なのか、やる気のあるスタートアップでもいいし、要するにパートナーがいてくれればいくらでも話に乗りますというような、そういう間口の広げ方はあるような気がする。</p>

次長兼廃棄物事業部長	<p>今の議論で、我々としても脱炭素は高効率で発電すればいいというような話ではなく当然ながらご指摘のとおりであり、何のためにやるか、利用先の問題というのがとても重要であると考えている。おそらく佐賀の事例もそうであるが、その施設も5%程度回収をしており、その利用も正直完全にはできていないということがある。現在我々も様々検討しているが、課題としては周辺が工業地域であれば様々な工場や設備が導入しやすいため、民間事業者との連携が非常にしやすい。回収するのはいいが、その出口戦略をどうするかが非常に厳しいというのが現状である。先ほど技術の課題があるということを申し上げたが、おそらく一番大きい課題は、現在ある程度技術は確立しているが市場性があるのかという点である。そういった意味で今後、できれば新焼却施設稼働時に新たな技術が導入できるのが理想ではあるが、現在の様々なことを見ているとやはりお金をかけて実証しているところにとどまっており、なかなかビジネスになっていない。一方で、やる以上は、会長からお話があったように事業者と組んで市場にきちんと還元されていくことが担保される必要があると考えているため、脱炭素先行地域もそうであるが、資源循環についても様々な事業者といろいろなご相談をさせていただいている。そのため、新今泉工場についてもぜひ実現できるように事業者と、あるいは大学とよくご相談しながら進めてまいりたいと考えている。</p>
久田会長	<p>次第3 報告(1)「雑がみの排出ルールの見直し及び雑がみ回収キャンペーンの実施状況について」、事務局より説明をお願いする。</p>
家庭ごみ減量課長	<p>&lt;資料2に基づき説明&gt;</p>
福島委員	<p>まだ始まったばかりということだが、反響や効果の兆しといったものは見えているのか。</p>
家庭ごみ減量課長	<p>雑がみ回収キャンペーンが始まってから、問い合わせが結構来ており、そもそも紙類を月2回の定期回収に出せること自体もわからなかったというような反応や、改めて雑がみはこういう出し方だったのですね、というご意見、さらにはイベントを通じて直接呼び掛けることで雑がみのほかにも排出ルールについていろいろとお尋ねがあり、雑がみについては資源化についてもお伝えしてきたところである。</p>
福島委員	<p>ごみの中に入ってきている紙の量が変わったかといったところについてはこれからということでしょうか。</p>
家庭ごみ減量課長	<p>これからである。</p>

佐藤朋子委員	<p>家庭ごみの袋についても今ここで質問してもよろしいか。先日社会学級で集まった時に出た話題だが、家庭ごみ袋の質というか、以前はもっと厚めであったと思うが質が変わったということはないだろうか。最近破れやすくなったという話が何件か出て、そんなに変わったかなとは思ったがその質問が一点である。</p> <p>また、値段がもう少し安くないかという話である。値段が下がることでごみの分別が進むなどそういったことがあるのではないかという話が出たため願います。</p>
次長兼廃棄物事業部長	<p>一点目であるが、袋の仕様の変更は行っていない。製造事業者が変わることにより若干の風合いが変わるとのご指摘があるが、基本的な性能の部分、耐久性、伸びや破れにくさなどそういったことについては製造ごとに検査を行っており、当然そこで問題のないものを供給しているため、それがなぜ起きているのかはわからないが、まず仕様の変更はないということである。</p> <p>もう一点手数料については、有料化からだいぶ時間が経っており、今後私共としては一般廃棄物処理基本計画が令和7年度に折り返しということで中間見直しを予定している。そこに向けて、もともと手数料を入れたきっかけはごみの減量、分別・リサイクルを進めるということであるため、まずはどういった成果・効果が出ていて、今後どうしていくのかということはこの中間見直しで議論する予定であり、手数料についてもその中で議論されるものと承知をしている。</p>
遠藤副会長	<p>資料2を拝見しており、動画の視聴回数が15万8千回というのは市役所のYouTubeとしては画期的に多いのではないかと。私も仙台市のYouTubeを度々見ることはあるが、他の再生回数と比べても、市民の知りたい、確認しなければというニーズがこの数字にすごく表れているのではないかと思います、うれしく報告を伺っていた。</p> <p>啓発ポスターについて、資料に載せていただいているものが小さくよく確認できないが、QRコードをもう少し多用していただきたい。このポスターを見たときに「紙は資源だ」という大きなメッセージは伝わるが、そこをきっかけに「今どうなっていたんだっけ」など気づいたときにすぐ調べるには、やはりQRコードがいいのではないかと思います。私もこの1、2年市民参加のイベントや勉強会をするときはアンケートもチラシも大体QRコードでみなさんすぐ読んでもらい、すぐ入力してもらおうという風にどんどん市民のみなさんも慣れていくと思う。やはり知りたいと思ったときに簡単に調べられなければ、知りたいと思った気持ちが半日後には消えてしまい思い出すことが少なくなるのは人間の特徴であると思う。QRコード以外にもすぐに調べられて勉強できるツールがあればそれでいいが、最近は他の方々もQRコードを多用していて、高齢者の方々もすぐにスマホで開くことをされているかと思うため、そのあたりの工夫も継続的に行っていただければ</p>



<p>家庭ごみ減量課長</p>	<p>と思う。</p> <p>動画の再生回数であるが、実は YouTube 広告を仙台市のエリア限定で出しているため再生回数が上がっているものと思われる。</p> <p>また、ご指摘いただいた QR コードの件であるが、これ以外にも出来るだけ QR コードをつけるように行っているところであり、今回のようなポスターについても今後そういった工夫を行いたいと思う。</p>
<p>久田会長</p>	<p>報告（２）「指定ごみ袋の水平リサイクルによる地域清掃ごみ袋の作製について」、事務局より説明をお願いする。</p>
<p>家庭ごみ減量課長</p>	<p>&lt;資料 3 に基づき説明&gt;</p>
<p>佐藤朋子委員</p>	<p>デザインについてであるが、これも前回の社会学級で集まった際に出た話題である。私たち社会学級では環境施設見学等でワケルくんバスを利用させていただくなど大変お世話になっているが、仙台に来たばかりの方々がワケルくんの存在を知らないため、これが仙台市のキャラクターであることもわからない、伝わらないと思った。仙台市のキャラクターであることやリサイクルを推進するキャラクターであることをもっと全面的に押し出した、誰が見てもワケルくんが載っていることが伝わる方がいいのではないか。ワケルくんを知らない方も割と多くいらっしゃるためよろしくお願ひしたい。</p>
<p>家庭ごみ減量課長</p>	<p>ワケルくんについては、様々なキャンペーンやイベント、掲出物にも出来るだけ活用しており、だいぶ定着しているように感じているところではあるが、委員のご指摘通りまだ知らない方もいらっしゃるのとことで、これからもどんどん活用し、できるだけ周知に努めたいと思う。</p>
<p>福島委員</p>	<p>資料 3 裏面の図を見ると非常に気になってしまうのだが、これで効果がどのくらい出るのかということは検討されているのだろうか。例えば洗った時の排水の処理であるとか、ストレッチフィルムのもともとの処理方法であるとか、そういうことによって効果は違ってくると思うというのが一点である。</p> <p>また、このごみ袋を作ったことで従来の清掃ごみ袋の製造量は減るのか、それとも従来の製造量もそのままにプラスチックで出ていくということなのかというあたりについても伺いたい。</p>
<p>次長兼廃棄物事業部長</p>	<p>一点目についてであるが、正直なところそういった評価はしていない。我々としては、従来のものに石油由来原料が 65%使われていたところを使わなくしたことに意義があると考えている。本来であればその過程、このよ</p>

	<p>うに切り替えることによりエネルギーがどれくらい使われているのか、水の問題もそうであるが、そういった評価をするべきであるものの、申し訳ないがしていないというのが現状である。</p> <p>二点目の従来の袋については完全に製造をやめている。少なくとも今後作るものについてはこのピンクの袋に一本化されるということである。</p>
福島委員	<p>従来のものは完全にやめることができるくらいの量の指定ごみ袋は回収できているということによいのか。</p>
次長兼廃棄物事業部長	<p>お見込のとおりである。指定ごみ袋の数はプラスチック資源の場合、大変多いため、正直まだまだ余っているところであるが、関係性としてはそういうことである。</p>
齋藤優子委員	<p>再生プラスチック 100%の地域清掃ごみ袋の製造というのは全国初ということで、資料3裏面のフローは、例えば先ほどお話にあったせんだい Tube の動画など、そういったところには何か広報として出していращやるのか。</p>
家庭ごみ減量課長	<p>動画は出していない。先日ある地区で環境美化活動が行われ、我々もそこに参加し実際に地域清掃ごみ袋を使って清掃活動を行っていたため、そのなかで地域清掃ごみ袋の製造に至るまでの経緯などを簡単に説明させていただいたところである。</p>
齋藤優子委員	<p>是非こういった全国初の取り組みであるとか、先ほどごみ袋の価格の話もあったが、自分たちの出したものが地域清掃のごみ袋として生まれ変わって役立っているなど、そういったところを上手にアピールしていくことは非常に重要なのではないかと思うため、ぜひこういった取り組みについて説明する場であるとか、広報の部分に力を入れてやっていただいた方がいいのではないかと思う。</p>
久田会長	<p>報告（3）「国の『脱炭素先行地域』への選定について」、事務局より説明をお願いします。</p>
脱炭素都市推進担当課長	<p>&lt;資料4に基づき説明&gt;</p>
福島委員	<p>資料4の推進体制というスライドの部分について伺いたい。推進体制というのは提案時に決まっていたのだと思うが、例えば一般住宅 659 戸や民間施設の 71 箇所というのは決まった状態で申請して、この数のこの一般住宅というように決まっているということだろうか。</p>

<p>脱炭素都市推進担当課長</p>	<p>申請の段階でエリアや需要家の方を特定して申請するという仕組みになっているため、今回は例えば住宅であれば泉パークタウンの紫山3・4丁目というエリアを指定しており、その中にある住宅 659 戸が対象となり、ここを 2030 年までに CO2 排出量をゼロにするということで申請している。ビルについても定禅寺通のエリアをここからここまでというように区切って申請しており、その中にあるビルを対象需要家として申請しているところである。</p>
<p>福島委員</p>	<p>その住宅や民間施設の方々はこのことをご存じではないのではないかと考えているのだが、費用などに関しては交付金でその地域のゼロエミッション化というのは図られるということだろうか。</p>
<p>脱炭素都市推進担当課長</p>	<p>今回対象エリアの皆様には事前にアンケート調査を実施しており、脱炭素先行地域への申請を考えており、選定されれば国の交付金を活用しながら太陽光などを導入していけるような制度であることをご説明した上で、それに対し皆様がどのようなお考えを持っていらっしゃるかということを知っている。そのほか、町内会長様には今回の先行地域への申請と中身についてご説明させていただいているが、採択されるかどうかわからなかったため、住民の方々への細かい説明会というものができなかった。この度選定されたため、改めて住民説明会も開催する予定である。</p>
<p>福島委員</p>	<p>補助金でお金が絡んでくるといろいろあると思っており、つい最近太陽光パネルを大々的に導入したといった話や、そういった人たちがこの前後であることによって利益を被れないということもありそうだったのだと、周知がどうだったのかということには気になった。カギとなる町内会長などには連絡がいていたということが分かった。</p>
<p>久田会長</p>	<p>先行地域として選ばれたなど、この類のものはこれまでもあったと思う。デジタル田園都市や強靱化などいろいろなかたちで国からのご案内があり仙台市がお進めになられると思うが、脱炭素といったら脱炭素に限って他の施策とのトレードオフ関係をついつい見落としがちになられることもあるのではないかと懸念している。御市が目指すべき未来に一番ふさわしいかたちで咀嚼してお進めになられるのが肝要かと思う。お金が来たから何をやるかという話ではなく、仙台市が将来目指すべきところに着地するためにどういう戦略が組めるかという視点でこの取り組みもお進めになられるといいのではないかとと思うので、そういう俯瞰的な目もぜひお持ちいただきたいと思う。</p>
<p>理事（脱炭素都市推進担当）</p>	<p>まさに会長におしゃっていただいた視点が非常に大事なのだろうと思っており、そもそもこの先行地域も様々な地域課題、脱炭素だけではなく脱炭</p>

<p>久田会長</p>	<p>素を使って何をするかということを選定の段階で非常に厳しく問われている。今回、地元の企業の方の競争力を高めることや、回遊性に課題のある東部沿岸部の回遊性を向上させ賑わいを後押しするよう進めていく予定である。また、定禅寺通は道路の再整備が今後始まっていくが、今回街づくり協議会の方にも共同提案ということで入っていただいております、道路が変わる中で沿道がどう変わっていきたいのかということ、この間協議会のみなさんとも何度もお話をしてきた。そこにどのように脱炭素をうまく使っていけるかということを考えてきたが、今後もこの視点を忘れずにやっていきたいと思っている。申請の段階でも、とにかく環境局だけでやるなということは何度も環境省に言われており、都市整備局、まちづくり政策局、建設局、区役所いろいろなところと話し合いをしながら検討してきた。様々な課題を一緒に解決していく同時解決モデルになるようにということを中心としてやっていきたいと思う。</p> <p>次第4「その他」ということで、何かあればご発言いただきたい。</p> <p>それでは私の方からご提案であるが、今日の審議いただいた内容は袋の話もそうであるし、施設の拡張性の話もあった。仙台市がお進めになられることもあるし、行政としてはここまでやるから一緒にやってくれませんかというような新しい事業創出、ビジネス創出のような可能性も十分あり得る。私たち審議会のメンバーのサジェスションだけではなく、一般の市民の方にもいろいろなアイデアをお持ちの方もいらっしゃるような気もする。YouTubeが15万回も再生されるということは相当みなさん関心が高いし、この審議会の前会長である吉岡先生がサーキュラーエコノミーを非常に精力的にお進めになられているという諸々を考え、脱炭素や資源循環などそういったもので、来年度のどこかのタイミングでタウンミーティングのような、市民を巻き込んでみなさん方行政のアクションのエンカレッジにもなると思うが、パブリックコメントとは違い、こちらの考えもお伝えしたいし、市民のみなさんの考えていることも聞きたいしということで、そのようなイベントの企画をお考えいただいたらいいのではないかと。東北大学もタイアップしてくれると思うし、そのようなことをご提案申し上げたいと思う。</p>
<p>次長兼廃棄物事業部長</p>	<p>先ほど令和7年度が基本計画の中間見直しの年だと申し上げたが、来年はその前年度にあたるため、ごみの様々な調査に加え、市民の方々とワークショップなり、対話の場は設けていかなければならないと考えている。また、今泉工場の検討委員会の場でも、工場をつくるという大変良い契機なので、検討過程での市民の巻き込みについてもご提案があったところである。私共としては、来年度は幅広く関係するみなさまと基本計画の中間見直しに向けて議論したいと考えているため、ご提案についても前向きに考え、良いかたちで実施したいと考えている。</p>

遠藤副会長	<p>今泉工場も今後建て替えるということで、資料をいただいてまだまだ私も勉強不足だと思い資料を拝見していた。先ほど福島委員も佐賀の施設を見られたというお話があったが、日本国内であるとか海外のそういった施設で環境学習部門もしっかりとしている場所で参考になるようなリストがあれば委員のみなさんにも送っていただければと思う。みなさん出張の機会が多いと思うが、近くの施設にアポを取って見学することを私はよくする。おそらくすでに調査されていると思うので、そういった国内外のリストを教えていただきたいというのが一つお願いである。</p> <p>また、先ほど会長が提案されたことは私もすごくいいなと思ってお話を伺ったところであり、総合計画が「Greenest」なので、例えばマンスリーで「Greenest」の取り組みを部局横断、市民・民間横断でキャンペーンのようなことをやるなど。庁内も市民も企業のみなさんも巻き込みやすいかもしれないので、何かそういったこともおもしろいと思って伺っていた。結構ネーミングは巻き込み上大事なので、もっといいものがあればご検討いただければと思った。</p>
久田会長	<p>やはり地域の活性化という大きな起爆剤にもなろうかと思うため、ぜひご検討を進めていただきたいと思います。</p>
齋藤優子委員	<p>資源循環を取り巻く状況は国内外で非常にここ数年劇的に変化しており、サーキュラーエコノミーという話もあったが、今後市民の方々や関係者の方々の巻き込むというときに、ぜひ今まであまり資源循環やごみ処理に関係してこなかったような分野の方々にも情報が行って、そこに興味関心、それからアクションにつながるような、取り組みのきっかけになるようなものにしていただければと思う。</p>
久田会長	<p>それでは以上としたいと思います。審議の円滑な運営にご協力いただき感謝する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>